

六価クロム化合物の特性と人への健康影響について

クロムには多くの種類の化合物があり、クロムのイオンの価数が六価のものを六価クロム化合物という。天然中に存在するクロムの原子価は、ほぼ三価のものに限られ、六価のものは人為起源であるとみられる。六価クロム化合物には多くの種類の化合物があり、代表的なものとしては、重クロム酸ナトリウムや酸化クロム等がある。

環境中へ排出された六価クロム化合物は、河川や海、土壌、水底の泥に存在していると考えられる。土壌に入った場合は、少量の場合は有機物などとの反応によって容易に還元されて三価クロムに変化し、水に溶けにくい形になると考えられるが、大量に入ると六価クロムのまま土壌中に存在したり、地下水に入る。

人への健康影響としては、動物実験の結果より、十二指腸のびまん性上皮過形成や貧血等があるとされている。国際がん研究機関（IARC）の発がん性分類では「人に対する発がん性がある」とされるグループ 1 に分類されている。日本でも、クロム酸製造従事者における肺がんが職業がんとして認定されている。

（参考文献：化学物質ファクトシート 2012 年版（環境省））